2016.7.10 発行

日本キリスト教団　吾妻教会報　No.13　2016 年 7 月 10 日発行

あ が つ ま

〒377-0801 東吾妻町原町 444－9

℡0279-68-4730

『ゴジラからのメッセージ　～平和のためのブレーキ～　』

牧師　望月 達朗

1954 年に初公開された特撮怪獣映画『ゴジラ』。2004 年を最後の区切りとして、ゴジラ映画シリーズは幕を閉じました。しかし今年の夏、庵野秀明監督のもと、『シン・ゴジラ』というタイトルで、再びゴジラが日本に上陸します。ゴジラの復活は、「3・11（東日本大震災）」以後を生きる現代において、必然だったのかもしれません。

ゴジラ映画の生みの親は、ウルトラマンシリーズでも有名な故円谷英二監督です。カトリック教徒でした（円谷監督のウルトラマンには、聖書の言葉や要素が盛り込まれています）。太平洋戦争の最中、円谷さんは、軍部からの指令によって、真珠湾攻撃の様子を描いた国民の戦意を煽る映画を作らされることになります。しかし敗戦後、その出来の良さが仇となり、ＧＨＱによって公職追放を受けることになりました。そして、それまでの人々の称賛が、一夜にして戦争協力者への罵倒に変わっていくことを経験し、世に対する不信感を持つようになっていきました。それが「永遠に不変なるもの」を求めてカトリックに入信した、直接の理由になったとも言われています。

さて、「ゴジラ」ですが、別名は「水爆大怪獣」。水爆実験で被爆した生物が、突然変異して生まれた怪獣です。1954 年、米軍によるビキニ環礁での水爆実験で、第五福竜丸が多量の放射性降下物を浴びた事件が映画誕生のきっかけとなりました。ゴジラは口から放射能を吐き、街を破壊していきます。福島の人々のつながりや町の破壊をもたらした原発事故…ゴジラは現実のものとなりました。放射能は目に見えず、自覚症状もない故の恐怖をもたらします。それを目に見える形で表現したのが、映画「ゴジラ」でした。ゴジラの圧倒的な破壊力と徹底的な恐怖感。それを強く印象付けることによって、円谷さんは、自然の命に対する畏敬の念を促し、行きすぎた人間にブレーキをかけようとしたのかもしれません。

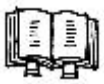
「『憲法第九条があるために〇〇できない』ということは、つまり憲法がなけれ

ば〇〇はスイスイできるということ。武力行使も九条がなければスイスイ。徴兵だってスイスイ」（小林カツ代）。これに対するご意見は色々あると思います。しかし、たとえ面倒臭くても、一線を越えてはならない、暴走を止めるためのブレーキは必要です。使徒パウロは語りました。「霊の導きに従って歩みなさい。…肉と霊とが対立し合っているので、あなた方は、自分のしたいと思うことができないのです」（ガラテヤの信徒への手紙５章 17 節）。主イエスの言葉に従おうとするが故に、自分のしたいと思うことができない…それは一見、自由が奪われているようでいて、実は、私達が気付かぬ内に的外れな信念のもとで突っ走っている暴走を止めるためのブレーキ、命綱となっていることをパウロは示しています。イエスは、人々をこの上なく愛しておられましたが、「何が人間の心の中にあるかをよく知っておられた」（ヨハネ福音書２章 25 節）ため、人間の言動は「信用されなかった」（同２章 24 節）とあります。「あなたのためなら命を捨てます」（同 13 章 37 節）と確信を持って決意表明するも、いざ自分の立場が危うくなればイエスを見捨てて逃げてしまう弟子のペトロ。「ホナサ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」（同 12 章 13 節）と歓呼の声を上げていたにもかかわらず、いざ、イエスが自分たちの都合に合わないことが分かると「この男を十字架につけろ」と豹変して叫び出す人々。人間の脆さが露呈するところ、それが十字架でした。だから、イエスは言われます。「日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（ルカ福音書９章 23 節）。十字架を背負う歩みが、私たち人間の行き過ぎた言動のブレーキとなります。そのブレーキは、人間の都合から考えれば、時に面倒臭いものでもあるでしょう。しかし、「自分のために命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」（同９章 24 節）とイエスは言われます。

円谷英二監督亡き後を引き継いできた孫の円谷英明さんは、『ウルトラマンが泣いている』（講談社）の中で、自社の失敗を振り返りながら次のように語っておられます。「ウルトラシリーズ〔低迷〕の最大の問題は、一本筋の通ったコンセプトを守れる人がおらず、時代の流れに翻弄されるがまま、ウルトラマンを過剰に『変身』させてしまったことです」。平和に思い深くする夏。移

り変わる時代状況の中で、私たちが忘れてはならないことは何であるのか…『ゴジラ』が、いや、イエス・キリストの十字架が問いかけています。

～私と聖書の言葉～



✞✞ 金井　総江さん ✞✞

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望はわたしたちを欺くことがありません。」（ローマの信徒への手紙５章３節）とても勇気づけられる聖書の言葉です。苦難は神様から頂いた課題だそうです。

苦難も忍耐も受け入れられず、苦しんでいた時に、この忍耐が私にとってどんな意味があるのか、苦しみを取り払って欲しいと祈っているばかりでしたが、この忍耐が私にとって何か意味があるのか、ふと考えた時、まさしく神様から与えられた課題と捉えることが出来、神様の愛に生かされている信仰によって希望につながることに気付かされました。この凛として力強いみ言葉にこれからもきっと励まされることと思います。

高齢者となり、静かで平穏に生かしていただいているこの頃は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて神があなたがたに望んでおられることです。」（テサロニケの信徒への手紙Ⅰ５章 16～18 節）に励まされ、日々の生活信条とし、健康でゆっくりと神様の示してくださる道を歩んでいきたいと願っています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

✞✞「神は愛なり」　塩谷　ヒロ子さん ✞✞

「神は愛なり」。この言葉は、吾妻教会の墓石に刻印してあります。

私が最初に入った教会堂（吾妻教会の古い建物）の額にこの文字がありました。聖書を勉強したこともなく、子供の頃教会に行ったこともない私が教会に足を踏み入れたのです。

中学生の頃は、愛とかラブとかいう言葉を口にするのはタブーのように思っていました。高校生になって、JRC（青少年赤十字）というサークル活動に参加して、「博愛」「人間愛」ということを知りました。

そして自分の心に愛することが欠乏していることに気が付きました。人を愛する人間になりたいと、私は教会に通い始めました。キリスト教の神さまは愛である、ということに惹かれたのかもしれません。

長いこと教会に通い続けていますが、今も私は人を愛することより人からの愛を求めている人間です。

神様からいっぱい愛をもらって少しでもその愛を隣人に分けてあげられる人になれるよう祈り続けていけますように。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

教会アルバム　*～最近の教会学校の様子～*

日本キリスト教団　吾妻教会（創立 1889 年 5 月 7 日）
〒377-0801　群馬県吾妻郡東吾妻町原町 444－9　　主任牧師　望月　達朗
℡0279-68-4730　http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/　牧　師　望月　奈津子